

令和6年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	R 6 - 1						
課題名	県産果物のブランド力を強化する次世代育種技術の開発研究						
課題の概要	高品質で差別化可能な品種や、近い将来の課題に対応する次世代品種の果樹開発を可能にする分子育種技術の開発を行う。モモの選抜マーカー開発研究をさらに発展させるとともに、ブドウも新たな研究対象に加える。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	2人	4人	人	人	3.3
	〃（阻害要因）	人	4人	2人	人	人	3.7
	必要性	1人	5人	人	人	人	4.2
	有効性	人	6人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	1人	5人	人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブドウ・モモのブランド化を県と研究所で議論を深めて、より具体的に戦略化されることを期待しています。 ・ 発言もしたが、台木の研究も行っていただきたい。 ・ 農業研究所との連携を今後も継続して、岡山県の生産者に利益があり、日本・世界の消費者にインパクトのある品種の育成を期待しています。 ・ 他県、他国の動きを常に意識しながら、モモをはじめとする県産果物のブランド力強化のためのブランド戦略と照らし合わせながら、更に研究を進めていただきたいです。 ・ 早く品種改良につなぐことを期待しています。 ・ 岡山の白桃のブランド力を向上できるように様々な視点から研究していただきたいと思います。 						

令和6年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	R 6 - 2						
課題名	持続的な農業生産に向けた環境保全型農業生産システムの開発						
課題の概要	減農薬栽培に向けた新規病害防除技術の開発により、県産農産物のブランド力の向上に貢献する。また、植物の防御力を向上させるバイオスティミュラントや環境低負荷型の病害防除剤であるプラントアクチベーター等を開発する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	2人	4人	人	人	3.3
	〃（阻害要因）	人	3人	2人	1人	人	3.3
	必要性	人	6人	人	人	人	4.0
	有効性	人	6人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	1人	5人	人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイオスティミュラントの普及に向けて農水省とマニュアル等、取組を進めて岡山発の事業展開を進めてください。月桃の方も植物対象もですが、人への応用も期待しています。 ・ 岡山県内への貢献、産業振興を強く進めてもらいたい。 ・ 日本全国プラス岡山の農業への活用がうまく進むことを期待しています。 ・ 良い研究成果が出てきており、実用化・社会実装のために外部の協力を更に求めながら研究を進めていただきたいと思います。 ・ 科学的裏付けもしっかりして欲しい。 ・ 人材や研究費不足の中で、できることを前向きに努力されていると思います。負担が大きいと思うので阻害要因ができるだけ取り除かれると良いと思いました。 						

令和6年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	R 6 - 3						
課題名	持続可能な農林業を支える種子選抜・肥培管理技術の開発						
課題の概要	独自の分光手法や肥培管理技術等を活用し、造林用の少花粉スギやヒノキの苗を短期間で歩留まり高く育成するための技術の確立を行うとともに、その原理に基づいて、黒大豆やスイートピーなどへの適用を目指す。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	5人	1人	人	人	3.8
	〃（阻害要因）	1人	3人	2人	人	人	3.8
	必要性	1人	5人	人	人	人	4.2
	有効性	1人	5人	人	人	人	4.2
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	3人	3人	人	人	人	4.5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> グルタチオンの効果をポジティブ・ネガティブ含めて使用者に周知しながら展開していただくことを期待しています。また、非浸しゅうのイメージング法の他の成分についても応用していただくことを期待しています。 環境循環として注目度は高い。今後の実証を期待しています。 グルタチオンの有効性を現場でいろんな方向から検討されており、更なる発展を期待しています。岡山での事例をぜひ積極的にPRしてください。 研究成果も出ており、持続可能な社会を可能にするために必要不可欠な研究開発だと思います。社会実装していくために更なる企業協力を求めていきながら、資金や人材確保のための支援に務めていただきたいと思います。 製品化につながる研究を頑張ってください。 持続可能性を考えるととても重要な研究だと思います。 						

令和6年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	R 6 - 4						
課題名	持続可能な飼料・食品産業を支える発酵技術開発						
課題の概要	タウリンを発酵生産し得る微生物を自然界より探索し、或いは既存の菌株を改良し、実用に耐える段階にまで育種する。当該微生物は枯草菌（納豆菌）が最良であると考えるが、同時に平行して、食経験のない微生物についても検討する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	人	6人	人	人	3.0
	〃（阻害要因）	人	人	6人	人	人	3.0
	必要性	人	3人	3人	人	人	3.5
	有効性	人	3人	3人	人	人	3.5
	効率性・妥当性	人	2人	4人	人	人	3.3
	総合評価	人	6人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県ならではの技術を前に出して、製品化に向けて研究発展していただくことを期待しています。 岡山県民への貢献をもっと含めてもらいたい。 システインからタウリンへの変換をいかに増大させるか、また実際の基質の変換が可能であることを前面に出してもらえればと思います。 農産物由来飼料の開発は世界的な需要があるため他社でも開発しており、この研究の他社に比べての競争優位性やマーケットコスト競争力も意識しながら更なる研究を進めていただきたいと思います。 タウリンが高蓄積する菌の同定を期待しています。 養殖魚が生産量を増す中で求められる研究であると思います。岡山理科大学が水質改善・管理で養殖を陸で可能にしたようにタイアップして飼料もできればと思います。 						

令和6年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	R 6 - 5						
課題名	県産農作物の機能性評価による高付加価値化の推進						
課題の概要	県産野菜が含有する機能性代謝物（アミノ酸、カロテノイド、ビタミンなど）やヒト生体への影響を評価する指標（抗酸化能など）を分析し、機能的な優位性を見出す。さらに、これらをより強化する栽培環境条件を見出す。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	1人	5人	人	人	3.2
	〃（阻害要因）	人	1人	5人	人	人	3.2
	必要性	人	2人	4人	人	人	3.3
	有効性	人	4人	2人	人	人	3.7
	効率性・妥当性	人	3人	3人	人	人	3.5
	総合評価	人	5人	1人	人	人	3.8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> 研究者ならではの詳細な成分分析を進めて、岡山県の特徴ある機能性食材の研究を期待しています。 岡山県全体を対象として、品目選択をしてもらいたい。 研究成果を使って、岡山の特長を生かす工夫を是非していただきたい。 消費者が多く求めている機能性を優先的に研究していく必要があるのではと思いました。効果の大きさから研究対象品種を選択していけば必要性や有効性も高まって行くのではと思います。 ぜひ付加価値の高い製品開発につなげて欲しい。 よりブランド力をアピールできる農作物を進めていただければと思います。 						

令和6年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番 号	R 6 - 6						
課題名	県主要農作物における細菌病害防除技術の開発研究						
課題の概要	モモせん孔細菌病接種系を用いてせん孔細菌病抑制効果を持つ防除資材を探索するとともに耐病性モモ品種の選抜技術を開発する。また、ナスの青枯病抵抗性遺伝子のクローニングを完結させ、抵抗性育種に利用する遺伝子マーカーを開発する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	1人	5人	人	人	3.2
	〃（阻害要因）	人	3人	3人	人	人	3.5
	必要性	人	6人	人	人	人	4.0
	有効性	人	6人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	3人	3人	人	人	3.5
	総合評価	人	6人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非遺伝子マーカーと極感受性の交配など、課題は山積かと思いますが、岡山ならではのモモの新品種の開発につながることを期待しています。 ・ 生産者からの要望が高い課題であり、今後を期待している。 ・ モモの病気に関する研究は岡山ならではの取組であり、岡山県、日本全国に通用する成果を期待しています。 ・ 岡山の誇るべき農産物「清水白桃」の更なるブランド力強化のための病害防除技術の開発研究を更に深めていただきたいと思います。 ・ モモせん孔細菌病の抵抗性に関与するマーカーの作出を期待しています。 ・ 岡山が誇れるモモができるように今後も研究を続けてください 						